

これみ
週刊「考歴民」 No.32

2021.11.1 交野古文化同好会
考古・歴史・民俗の頭文字を取って考歴民
(これみ)と名付けました。

この伝説を知っていますか?

その1:「なべ石」

かつて、磐船川(天の川上流)を田原盆地へ
上りつめた奈良県と大阪府の境に、黒い大石
が路上に出ていた。

神功皇后が三韓征伐の途中、ここまで来て炊事
を始められた。

ところが、鶏の鳴き声を聞き、もう朝だとお感
じになった一行は、大石の上に「なべ」を置い
たまま出発されたので、以来なべ石というよう
になった。



磐船街道

「なべ石」付近の羽衣橋

神功皇后すなわち息長帯姫尊の伝説は交野市
付近にはたくさんあるが、その内容のほとんど
が作りごとのようである。

けれども、ここなべ石から東南9kmには神功
皇后陵と称する古墳があり、また東北約5km
には皇后の祖父迦邇米雷王を祭神とする朱智
神社(田辺町天王)がある。この王はこの付
近に住んでいたことになっている。だからこ
のあたり(北大和から、交野、南山城にわた
る)一帯で、皇后が行動したという言い伝え
があったことは事実らしく、そのためこの地

方民にその印象を強く残して、こんな伝説が
生まれたのであろう。

現在は、河川改修工事が行われて「なべ石」
の横顔も見られなくなりました。

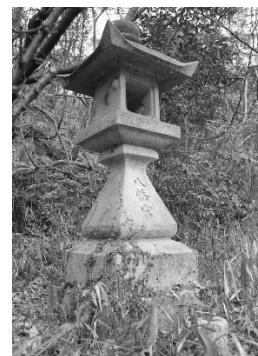
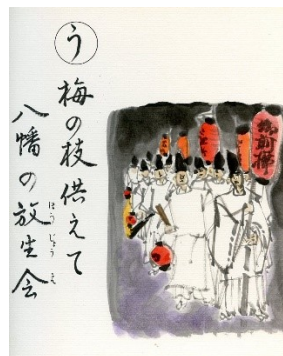
その2「梅の木」

神功皇后が三韓征伐にお立ちになる前、祖
父迦邇米雷王に別れを告げるため祖父の住ん
でいる天王(京都府田辺町)にお出になっ
た。そして暇乞いをしたあと、磐船谷に浴っ
て大和に行かれる途中、ちょうど磐船明神の
手前に来られたとき、その路傍で兵をとめ休
憩して食事をとられた。

食後、皇后は梅干しの種を捨てられた、その
種が芽を出して立派に成長した。

その後、平安時代になって男山に石清水八幡
宮がまつられ、毎年秋(9月15日)になると
放生会の渡御に御前払として私市村の神人が
奉仕することになった。

その際、神人たちはこの梅の枝を持って行列
の道を払うことが、古来、しきたりとして今
に伝えられている。



交野郷土史かるたより

梅の木(八幡宮)



石清水八幡宮放生会絵巻

◆これより、となりの「なんでや」おっさんに加わってもらいます。

【隣】伝説って、作り話でっか

【考】過去に起きた事象が人づてに伝わっている内容の事。

【隣】内容とは

【考】神話のように事実では無いものも含むが、一般的に事実だと信じられて伝えられている内容が「伝説」に当たり、初めから嘘だと分かりきっている内容は「物語」「つくり話」「昔話」「お伽話」のように使い分けられている。また、転じて「歴史に残る偉業」「凄いこと」「ビックリするうわさ」も伝説と呼ばれる。

【隣】「なべ石」は、神話のように事実では無いものも含む、「梅の木」は、一般的に事実だと信じられて伝えられている内容か

【考】「梅の木」伝説の後半部は現在、石清水八幡宮放生会に地元、森から火長神人、私市から御前払神人として参加しています。

【隣】神功皇后さまって、どんな人

【考】『古事記』『日本書紀』にみえる神功皇后は、日本の第14代天皇・仲哀天皇の皇后。応神天皇の母である。

「日本書紀」での名は気長足姫尊で仲哀天皇崩御から応神天皇即位まで初めての摂政として約70年間君臨したとされる

【隣】ところで、なべ石を通過されたのは、三韓征伐に行かれるまえとあるが

【考】三韓征伐（さんかんせいばつ）とは

神功皇后が新羅出兵を行い、朝鮮半島の広い地域（三韓とは新羅・百済・高句麗）を日本の支配下に入るとされるためこの名で呼ばれるが、直接の戦闘が記されているのは対新羅戦だけなので新羅征伐と言う場合もある。

【隣】三韓征伐にお出かけになる途中とあったが「なべ石」の方は往路で「梅の木」の方は復路ですか？

【考】そのようにおもわれます、磐船街道をですね

【隣】魏志倭人伝→邪馬台国→女王卑弥呼→神功皇后？

【考】伝説、伝説、もうこれっきり、今日はこれっきり。

参考資料 交野市史(民俗編)
国史大辞典 他

次回 11/8

